

# 須崎のキャリア教育

須崎市キャリア教育推進員 橋村政海

## 1 須崎のキャリア教育、スタート H25 に県の指定を受けて

◆須崎市では平成25年度から3年間、『キャリア教育推進地域』の指定を受け、須崎市教育研究所にキャリア教育推進員を置き、市内全13小中学校が推進校となってキャリア教育に取り組んでいます。

### 須崎のキャリア教育における課題。スタート時の現状分析より



◆キャリア教育を推進するにあたり、3つの視点から現状を分析しました。

#### ①学力向上

平成24年度の全国学力学習状況調査において、国語は小中学校ともに全国平均よりやや下回っています。その中でも特に、小学校では国語Bの記述式の問題が下回っており、粘り強く最後まで取り組むことが弱い傾向がみられます。中学校も同じような傾向にあり、国語・数学ともにB問題の記述式について無回答率が高いことから、最後までやり抜く力が弱く、また、小中学校ともに「関心・意欲・態度」が低く、学習に対する意欲に課題が見られました。

#### ②基本的生活習慣の確立

須崎市内の児童生徒の基本的生活習慣については、すべての児童生徒にアンケートを実施しており、その結果から課題として、低学年からの就寝時刻が遅く、睡眠時間が全体的に短いことが分かりました。その理由としては、テレビ、ビデオ、ゲームなどのメディアに触れる時間が非常に多いことがあげられます。また、全国学力学習状況調査からは、家庭での勉強時間(特に予習)が全国平均や高知県平均と比べてかなり少ない傾向にあることが分かりました。

#### ③社会性の育成

須崎市では子どもたちと地域との関わりを大事にした取り組みを長く行ってきましたが、平成24年度の全国学力学習状況調査「児童生徒質問紙」において、「近所の人に出会ったときあいさつをしていますか。」の設問で「当てはまる」と答えた児童生徒が、小学生で48.8%、中学生は32.2%と、全国と比べて少ない傾向にありました。学校内では比較的挨拶が出来ているように見えますが、地域の方との日常的な挨拶があまり交わされておらず、他者と関わる力を育てることが課題となりました。

◆各課題は、須崎の児童生徒の平均的な傾向を示したもので、推進校の13小中学校それぞれに傾向や課題も異なることから、一律ではなく、さらに推進校毎に課題を分析し、これまでの研究実践や地域の特色を生かしながらキャリア教育を推進していくことにしました。そして、その課題解決と、須崎の子どもたちのより良いキャリア形成を目指して、須崎のキャリア教育をスタートさせました。

## キャリア教育とは？ キャリア教育視点とは？ 頻繁に使う言葉の意味の共通理解

- ◆『キャリア教育とは何か』。「職業体験のこと？」「新しい進路指導のこと？」など、人によって捉え方が違っており、言葉を正しく理解し共有化することが必要と考え、『小学校／中学校 キャリア教育の手引き(文部科学省)』よりキャリア教育の意味を抜粋し、全教職員が同じ概念で取組めるようにしました。

キャリア教育とは（文部科学省『キャリア教育の手引き』より）

- ★キャリア……人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね
- ★キャリア教育……一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
- ★キャリア発達……社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

- ◆この概念を特定したことで、キャリア教育の目指すことが明確になりました。また、『キャリア教育視点』という言葉も頻繁に使うようになるため、須崎市での『キャリア教育視点』の意味を、次のように定義づけました。

- ★キャリア教育…社会的・職業的自立に向けた取り組み。
- ★なぜ今キャリア教育を…学校教育と社会生活とに隔たり感がある。

須崎市で共有する『キャリア教育視点』の意味



- ★子どもたちが、社会人・職業人として自立していく能力を育てているか
- ★社会生活に関連する身近なことを取上げながら、子どもたちの関心・意欲を高めているか

- ◆そして、須崎市教育目標や須崎市学校教育ビジョン(表紙参照)を元に、須崎市キャリア教育の目標を次のように設定しました。

須崎市 キャリア教育の目標

夢や志を持ち、  
自分の未来を切り開いていく子どもを育てる

- ◆この目標を実現するために、社会的・職業的自立に向けた能力の育成だけでなく、夢や志を持つための基盤となる『自尊感情』の育成や『地域を知り、地域を好きになる』取組みも含めて、キャリア教育を推進していくことにしました。

## 2 基本的な考え方『なるために・やるために』

- ◆言葉の意味を理解しても、具体的なイメージがないと、キャリア教育の必要性が分からず、「なぜ今、何のためにキャリア教育をするのか」という思いが強くなると考え、キャリア教育の必要性について『なるために・やるために』という具体例を示し、基本的な考えとして共有するようになりました。

◆たとえば、学校の先生に『なるため』には、大学や採用試験に受かることが前提となるので、個人でこつこつと勉強することが重要になります。

◆しかし、学校の先生を『やるため』には、授業力は勿論ですが、生徒や保護者、同僚や地域の方々と信頼関係を築くことがとても大切です、そのための能力は他の人との交流の中でしか身につけることができません。

◆他人と関わる力などを身につけず、学力だけで教員になった場合、『なったのに、やれない』ということになってしまいます。

◆他の仕事でも同じことが言

えます。看護師になるためには、進学や資格取得の勉強が重要ですが、看護師の仕事をするためには、患者さんや同僚と信頼関係を築くための能力が必要となるでしょう。

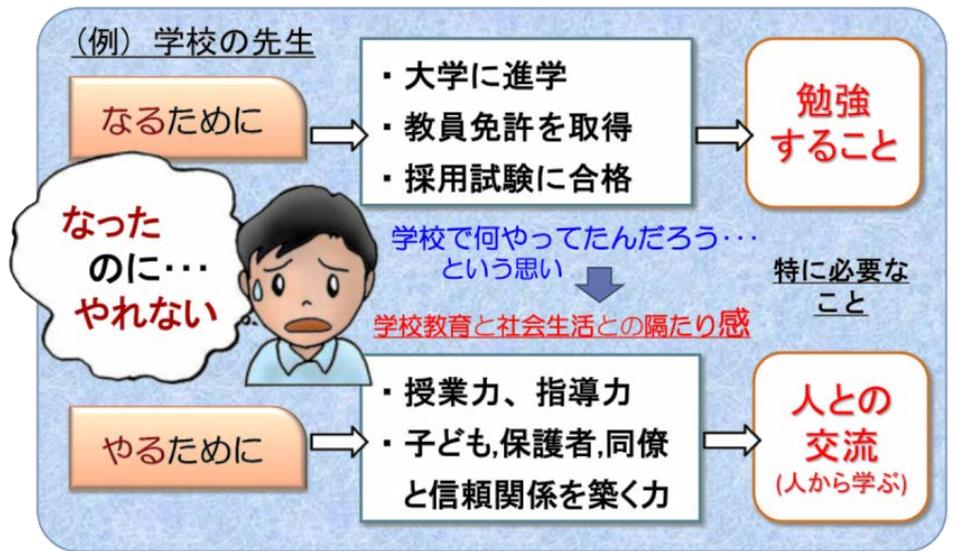
◆さらに言えば、家庭を円満にし、社会人として地域の人と仲良く幸せに暮らしていくためには、そうしていくためのいろんなスキルを身に付けていくことが必要となってきます。

◆このように、子どもたちが将来、社会人・職業人として自立していくためには、コミュニケーション力や課題対応能力、そして掃除や班活動など友達と一緒に働く協働体験などが大切で、その中から勉強することへの興味関心も高まってくると思います。

◆校外での体験活動に対して、「体験活動も大事だけど、学校で教科の勉強をさせてほし

い」というご意見をいただくことがあります。また、練習に時間がかかる行事を見直し、加力などの学習時間を確保している学校もあります。学校での活動を、なるために・やるためにと明確に分けられるものではありませんが、そう考えることによって、なぜ教科・領域の学習に加えて体験学習が必要なのか、なぜ授業中に話し合いや発表をする活動が必要なのか、行事に取組み、練習段階で失敗や仲たがいなどしながら、成功に向けて積み上げていくことが必要なのかなどがはっきりとしてきます。

◆この『なるための学習』と『やるための学習』のイメージを元に、子どもたちの将来にとって必要なことを考えながら、須崎のキャリア教育を推進しています。



### 3 キャリア教育はなぜ必要か

- ◆キャリア教育の言葉を理解し、『なるために・やるために』と考えてもなお、「キャリア教育は、なぜ必要か」という疑問が残ります。社会が多様化するにつれて、学校には『〇〇教育』と冠されたものが次々と導入されており、先生方がキャリア教育の必要性を強く感じなければ、キャリア教育を推進していくのは難しいと考えました。
- ◆そのため、「なぜキャリア教育が必要なのか」を明確にし、分かりやすい言葉に置き換えて先生方にお伝えすることが、キャリア教育推進員として重要な役割の一つと考え、プレゼン資料を作り、各推進校の校内研等でキャリア教育の必要性をお伝えし、共有させていただきました。
- ◆キャリア教育の研修会で講話を聞いたり、日々のニュースを聞いたりする中で気付いたことは、『これまで私たちが暮らしてきた社会と、これから子どもたちが生きていく社会とは、全く違う世界になる』ということと、そのことに対して今まで通りの教育では対応できなくなるということでした。
- ◆子どもたちを取り巻く世界と、待ち受ける未来はどうなっていくのでしょうか。キャリア教育を推進していく原動力にもなることですので、いくつか紹介したいと思います。

勉強は我慢！日本の子どもたちは、高学力だが勉強は嫌いで役立たないと思っている



◆PISA やTIMSS などの学力調査を見ると、日本の学生は世界的にもトップレベルの学力を有していますが、勉強の大切さや意義に関する意識調査では最下位という結果が出ています。勉強と自分の将来との関連性が見えないまま、『受験が終わったら剥落する知識』を覚え込む状況が危惧されています。「何のために学ぶのか」を考え、生活や将来に関連させながら、学習への関心意欲を高めていくことが求められています。

アクティブラーニングの実質化など、これから進む大学改革・大学入試改革の波

- ◆小中学校で探究や発表を取入れた授業を進めても、高校や大学入試が知識偏重型であれば、知識詰め込み型の学習が有利となり、教師が前でひたすら解説をする一斉授業のスタイルから抜け出せないこともありました。
- ◆中央教育審議会の「質的転換答申」においても、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換の必要性を指摘しているように、大学や大学入試が大きく変わろうとしています。この改革は、コミュニケーション能力の育成等、須崎市の各小中学校が進めているキャリア教育の方向性と合致しており、キャリア教育視点で授業改善を進めていくことが今後さらに重要になってきています。



終身雇用の崩壊、労働形態の変容などから、転職が当たり前の社会に

- ◆毎年3割もの若者が、就職をしても3年以内に離職しています。「最近の若い者は我慢が足りない」と

叱責できる人は、『終身雇用が当たり前で、入社したら会社が育ててくれて定年まで働けたラッキーな時代』に働くことができたと言えるかもしれません。4割が非正規社員という今の雇用形態から、長期雇用はしないという構造がみられます。さらに、ブラック企業や圧迫面接(わざと否定的な応答をして追いつめ、対応力をみる)が社会問題になるなど、若者を使い捨てる企業もたくさんある中で、教員たちが将来しっかりと働き、転職しても適応していける資質能力を身につけられるように、教える側がしっかりと意識して取り組む必要があります。

## 今ある仕事の6割が消滅！？急激な情報化・技術革新が、社会を変える

◆情報通信、ロボット工学、バイオ、遺伝子解析等々、最先端技術の飛躍的な進歩で、今までの時代の流れよりもっと急激に社会が変わろうとしています。その影響で、今ある仕事の6割が消滅し、子どもたちは今の私たちが知らない職業に就いているとも言われています(ということは、大量解雇・転職の時代になることも意味しています)。右に3例を示していますが(ネットで検索してみてください)、次代の人材を育てる教員として、先端技術を知っておくことも大切なことだと思います。



テレプレゼンスロボット  
病気でも自宅から授業が受けられる！？アメリカで導入が進んでいます。  
TelepresenceRobotList HP より

ウェアラブル革命  
～着るコンピュータが働き方を変える～  
(NHK クローズアップ現代)  
スマホの次の技術も進化を続けています。



ドローンで測量 鹿島 HP より  
ドローンを、空撮して遊ぶだけのものと思いませんか。多くの仕事に置き換わる可能性を秘めています

◆「今ある仕事の6割が消滅」と聞いても、「今のよ

うな教師の仕事も無くなるかもしれない」と思われますか。スマホやタブレットで高画質の動画が簡単に見られるようになり、地方の塾でも動画で教え方の上手な先生の授業を見ながら勉強できるようになってきています。さらに塾に行かなくても、月額1,000円ほどで授業の動画が見放題になるサービスも始まっています。「分かりにくくて面白くない先生の授業」より「よく分かる先生の動画」で勉強する時代になるかもしれません。高知県でも、教員の夏季研修にオンデマンド研修が取り入れられ、追手前高校では本校と分校を結んで双方向の遠隔授業を実施するようになってきました。時代は確実に『集まるのは非効率』『ネットでできることはネットに置き換えよう』という流れになってきています。



## 学力向上だけで学校は生き残れるか？ キャリア教育の重要性⇒学力と両輪で

◆「それなら、わざわざ学校に行かなくても、自宅で勉強させたらいいじゃないですか」と言われたら、どう答えますか。先生方には、たくさんの反論があると思います。その、わざわざ学校に集めることによって学ばせたいこと、それがキャリア教育で育てようとしていることと同じではないでしょうか。良い面だけでなく、友達とケンカをしたり、先生の勘違いで理不尽なことを言われたりすることも含めて、学校に集まることで学べるものがたくさんあります。前述の『なるために・やるために』とも重なりますが、学校では児童生徒に『しっかりと学力をつける』ことと、『社会人・職業人として自立していく能力を育てる』ことの両面が求められていると思います。

◆このような話を、推進校の校内研等で話させてもらっていたのですが、来春ついに、インターネットの双方向性を最大限に活用した『N高等学校』が開校します。動画配信で授業が受けられ(森村誠一の小説の授業などプロフェッショナルによる課外授業も)、生徒間もネットを使って交流し、学費は3年間で29万円(高等学校等就学支援金適用後)で、3年間で高校卒業の資格が得られます。



2016年4月開校予定 単位制・通信制(広域)  
※N高等学校は学校教育法第1条に定められた高等学校です。全日制と同じ卒業資格を取得することが出来ます。  
 N高等学校 HP より

◆情報技術の進化によって、学校教育のスタイルや教員の働き方などが変わるかもしれないという一例ですが、今まであまり意識してこなかった『何のために学校に集めるのか』ということを経済教育視点で問い直すときに来ていると思います。

エネルギーが変わる。世界のパワーバランスが変わる。対テロ戦争への恐怖

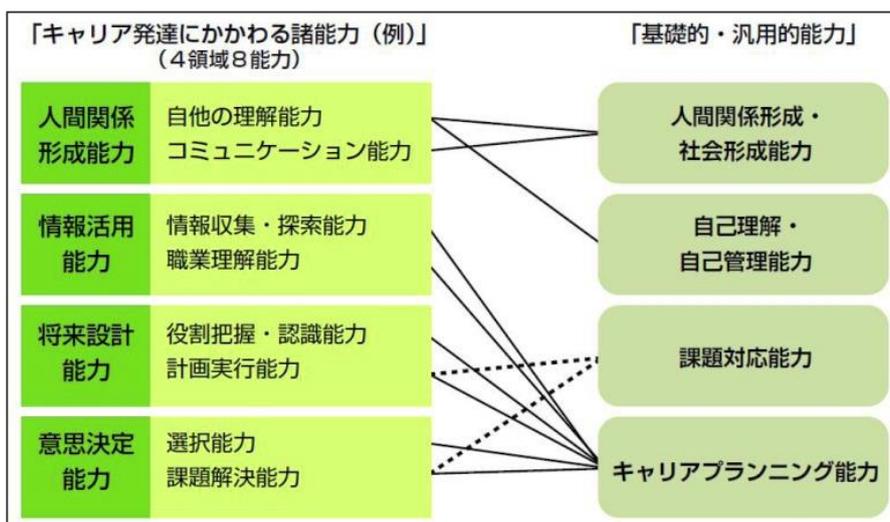
誰も体験したことのない、超・少子高齢化社会の到来

年間3万人を越える自殺者は先進諸国でも突出。若者の自殺も多いという現実

◆その他にも、子どもたちの将来を危惧することがたくさんあります。中でも、子どもたちの命にかかわる問題には胸が痛みます。キャリア教育視点で防災教育に取り組んでいる先生から、「私たちがつけた生きる力は、(災害から)『生き延びる力』ではなく、(災害後の困難も乗り越える)『生き抜く力』です」とお聞きし、感銘を受けました。

◆平成14年に示された「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」と、現在の「基礎的・汎用的能力」との関係を示した図(文部科学省『キャリア教育の手引き』より)を見ると、『自己管理能力』が大事な能力として明記されたことが分かります。

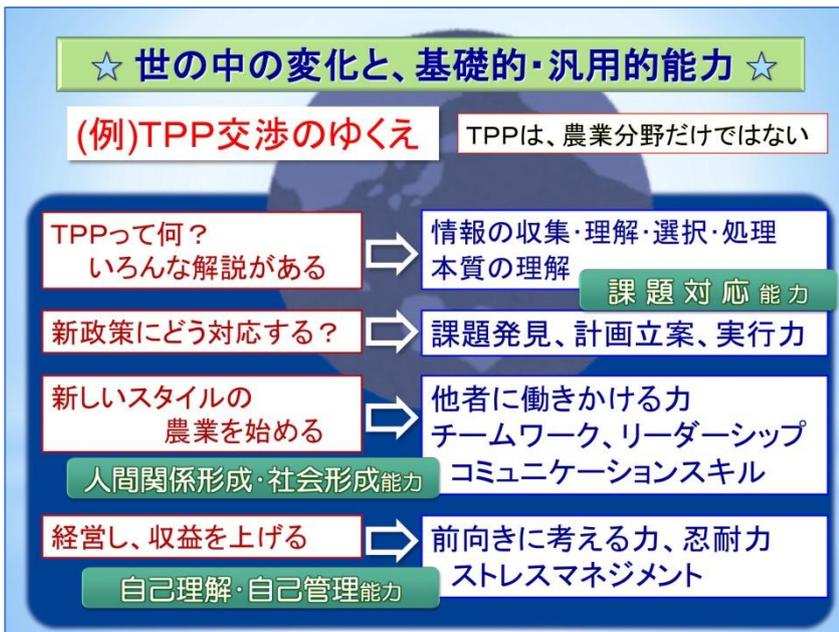
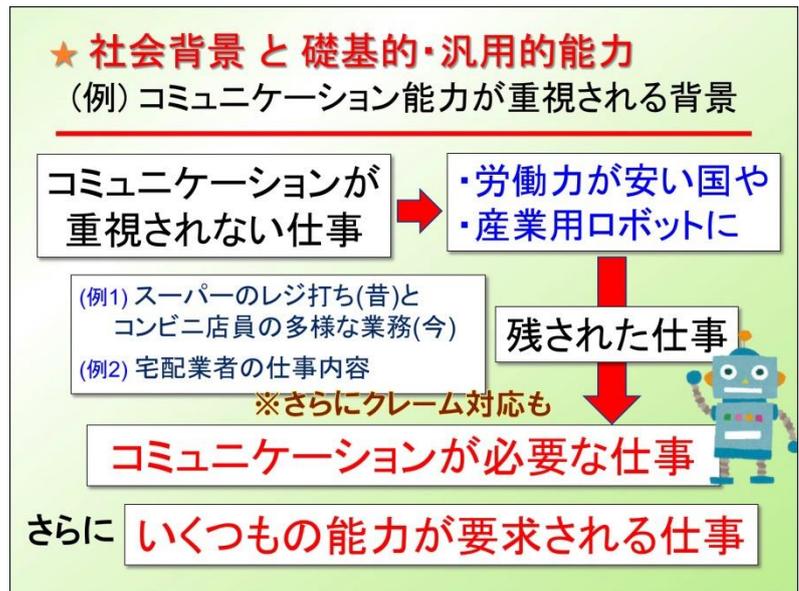
◆『自己理解・自己管理能力』における要素には、「ストレスマネジメント」や「前向きに考える力」も示されており、正解や成功を求めることだけでなく、失敗から学び再挑戦する心を育てることも重視されています。自己理解・自己管理能力や



課題対応能力が、行事の練習の中で失敗し、練り直し、友達とも口論したり、協力したりする中で培われることから、行事の事前事後の取組みが子どもたちの大事な能力を育てており、学習時間の確保と同じく行事の取組み時間も確保しながら、生き抜く力を育てていきたいと思います。

キャリア教育は、子どもたちが将来-激動の時代を生きていく-という認識から

- ◆キャリア教育の必要性を、時代背景から列挙しましたが、さらにそのことがキャリア教育の基礎的・汎用的能力とどう関わってくるのかについても、校内研等でお伝えしました。
- ◆例えばコミュニケーション能力について。単に『仕事をするには会話力が必要です』ということではなく、働くためのスキルが年々高くなり、就職しても簡単な仕事から徐々に仕事を覚えていくのではなく、すぐに実践力を要求される時代になってきているということです。



- ◆TPP交渉にしても、TPP交渉に関連する職種で働く場合には、情報を集めて理解し、課題を見つけて計画を立て、仲間と協働しながら利益を上げていく必要があります。基礎的・汎用的能力の、いくつもの能力が不可欠になります。
- ◆さらに、仕事だけでなく、趣味や日々の生活、家族や地域との関わりなど、幸せに生きていくために、キャリアプランニング能力を高めていくことも大切になってきます。

キャリア教育で、子どもたちが自分の未来を切り開いていけるように！

- ◆キャリア教育を推進する中で、須崎には『地域を活性化したい』という熱い思いをもっている子供たちがたくさんいることを知りました。須崎を盛り上げたいと奮闘している大人の方にもたくさん出会いました。須崎には以前から、各校が地域ぐるみで教育に取り組んできた実績があります。新たなキャリア教育を始めるのではなく、これまでの実践をキャリア教育視点で見直し、実践を重ねていく中で、子どもたちが夢や志をもち、自分の未来を切り開いていけるようにキャリア教育を進めています。

